

シリーズ2 庭木に利用する樹種の特徴と管理⑬ —ムラサキシキブとコムラサキ—

日本樹木医会富山県支部

樹木医 西村 正史

秋に雑木林の中を散歩していると、紫色の美しい実をたくさんつけている樹木が目に入ってきます。この樹木はムラサキシキブかコムラサキのどちらかです。両種とも実に観賞的な価値があるため、庭木などに広く利用されています。今回はこの2種類の樹木を紹介します。

1. 特徴

両種ともシソ科ムラサキシキブ属の落葉性低木で、日本各地の林などに自生しています。同じ低木でもムラサキシキブの高さは2~3mであり、コムラサキの高さはムラサキシキブの半分程度です。また、ムラサキシキブの枝はしだれませんが、コムラサキは枝がしだれるという特徴があります。

両種とも6月頃に薄い紫色の小さな花を葉の脇にたくさんつけますが(図1、図2)、地味なためあまり目立ちません。ところが、秋になると枝に沿って光沢のある紫色の直径3mmほどの球形の実がたくさんなります。コムラサキの方がムラサキシキブに比べてはるかに多くつきます(図3、図4)。両種の違いは葉柄と花柄のつく位置と葉の鋸歯で区別で

きます。前者では、ムラサキシキブは近接していますが、コムラサキでは少し離れています。後者では、鋸歯が全葉にあるのがムラサキシキブであり、葉の上半分にのみにあるのがコムラサキです。

2. 維持管理

両種ともやや湿り気のある土壌で、日のよく当たる場所からやや日陰の場所で、よく育ちます。そのため、土壌が乾燥した場合には散水する必要があります。両種とも自然樹形を楽しむことが基本ですが、枝が混み合っていれば落葉期に整理してください。落葉期である晩秋から冬の間には剪定するのは、両種とも花芽が5月頃に新しい枝に形成されるためです。花芽の形成以降に剪定すると、花芽のある枝を切り落とすことになるので、花や実が少なくなります。両種とも剪定に非常に強いので、樹形を一定の大きさに保ちたい場合には落葉期に剪定をするよう心がけてください。

※写真はすべて富山県中央植物園で撮影したものです。



図1 ムラサキシキブの花(2015.6.16に撮影)

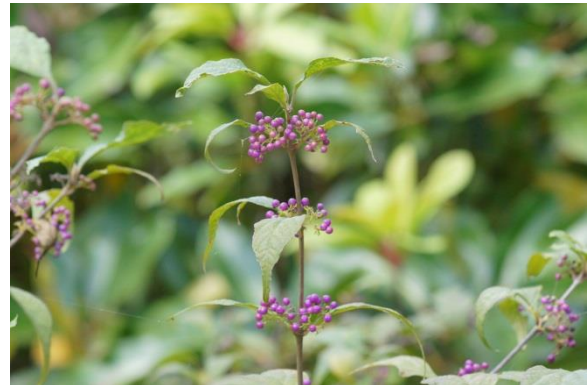


図3 ムラサキシキブの実(2010.10.29に撮影)



図2 コムラサキの花(2015.6.16に撮影)



図4 コムラサキの実(2010.9.24に撮影)